

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2018. 1. 11◆◆◆

【 四国地方整備局長 平井 秀輝 】

謹んで新年のお慶びを申し上げます

平素より四国地方整備局の業務にご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。皆様におかれましては、よき新年を迎えられたことと思います。

昨年12月22日に平成30年度当初予算の政府原案が閣議決定され、国土交通省所管の公共事業関係費は5兆1828億円(国費)となり、対今年度比で1.0を確保することができました。これまでご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。

さて、昨年は、横瀬川ダム定礎式の開催、松山外環状道路空港線側道部、撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業、サンポート合同庁舎南館の完成など、四国地方整備局の実施する多くの事業において大きな進捗を見ることができました。これもひとえに関係する皆様方のご理解とご協力のお陰であり、心より感謝申し上げます。

改めて申し上げるまでもなく、南海トラフ巨大地震や降雨の局地化、集中化、激甚化に代表される自然災害への備えを進めることと、魅力ある四国づくりを通じた地域の活性化の2点が、四国地方整備局が取り組むべき重要なテーマです。

ひとつ目のテーマである自然災害への備えに対しては、「四国8の字ネットワーク」の整備や河川・海岸堤防、岸壁の耐震強化などの事業を着実に推進することが必要です。これらの事業推進をはじめとした施策を推進するため、「四国南海トラフ地震対策戦略会議」を通し、四国全体が一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

自然災害対策は、スピード感をもち、かつ、より効果的に事業を推進していくことが重要です。四国の数の優位性を活かしたダム再生事業など既存ストックの有効活用や、国・県・市で連携する高知港海岸の三重防護対策など、関係者が一丸となった取り組みによる効果の最大化に重点を置き、事業進捗を図っていきたいと考えています。

また、ふたつ目のテーマである魅力ある四国づくりに対しては、クルーズ振興、四国八十八景の選定などを推進するとともに、地方創生に係る取り組みとして、四国が誇るアートや祭り、スポーツ、魚・果実など「聖地・ブランド」化が促進されるよう、インフラの側面から支援していきたいと考えています。

さて、私たち四国地方整備局のルーツの1つでもある、内務省の中国四国土木出張所の初代出張所長を務めた原口忠次郎氏をご存知でしょうか。原口氏は、内務省退官後に神戸市長を務め、明石海峡大橋建設構想を発案したひとりと言われています。原口氏の構想に対して「市長は夢を見ている」などの批判が集まりますが、氏は「人生す

べからく夢なくしてはかありません」と切り返し、明石海峡大橋建設に尽力したと伝えられています。

原口氏は昭和51年に明石海峡大橋の完成を見ることなく生涯を閉じますが、氏の遺志を継いだ人々の努力が実を結び、平成10年に明石海峡大橋が開通します。本年は、開通から20年の節目の年を迎えます。今では当たり前になった橋が有る日常も、「夢」を諦めなかった先人達がいたからこそ実現しているのです。

人口減少や少子高齢化など、四国地方が乗り越えるべき課題は山積しています。しかし、今「夢」を見なければ、何も実現させることは出来ません。「夢」を持ち続け、その実現に力を注ぎ、後世の人たちに豊かな社会を引き継いでいくことこそ、私たち四国地方整備局の使命であります。

最後になりましたが、平成30年が、新しい「夢」が始まる年になること、そして皆様にとって健やかで良い年になりますことを祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

目次

- 平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰（関東・東北豪雨災害TEC-FORCE）
- 平成29年度 第1回「災害に強いまちづくり検討会」の開催
- 第3回四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会の開催
- 横瀬川ダム定礎式を実施
- 撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業完成式典の開催

平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰
（関東・東北豪雨災害TEC-FORCE）

【企画部 防災課】

平成27年関東・東北豪雨におけるTEC-FORCE活動の功績が評価され、緊急災害対策派遣隊が「平成29年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。授与式には国土交通省を代表し、関東地方整備局職員が参列し、安倍内閣総理大臣から表彰状をいただきました。

【四国地方整備局派遣内容】

- 派遣先：茨城県常総市
- 派遣期間：平成27年9月10日～9月18日
- 隊員数：合計11名
- 災害対策用機械：
 - ・香川河川国道事務所 排水ポンプ車1台、照明車1台
 - ・松山河川国道事務所 排水ポンプ車2台、照明車1台
 - ・四国技術事務所 排水ポンプ車2台、照明車1台

平成29年度 第1回「災害に強いまちづくり検討会」の開催

【 建政部 都市・住宅整備課 】

平成29年度第1回「災害に強いまちづくり検討会」が開催されました。
当検討会は、四国地方整備局管内の地方公共団体の災害に強いまちづくりの一層の推進・サポートを図るため、管内の首長・学識経験者と意見交換を行い、地域モデルを検討・策定するとともに、そこから抽出される施策・問題点等を踏まえ「災害に強いまちづくりガイドライン」を策定することを目的に開催されています。（なお、「四国地震防災基本戦略」の具体の取組としても位置づけられています。）

本検討会は、今年度内に2回の開催を予定しており、第1回は高知県黒潮町で開催されました。

日時：平成29年11月21日（火）～22日（水）
場所：高知県黒潮町 土佐西南大規模公園ふるさと総合センター

出席者：大西黒潮町長、宮脇上島町長、岩崎大豊町長、池田中土佐町長、地方公共団体関係者、原高知大学教授をはじめとする学識経験者、四国地方整備局長（2日間でのべ97名が参加）

概要：

1. 審議・報告
(1) 最近の動き・取組状況の報告【四国地方整備局より報告】
(2) 黒潮町の取組状況・課題等【大西黒潮町長より報告】
(3) 黒潮町における災害に強いまちづくり計画（改定素案）の審議
(4) 復興まちづくりの事前対応に関する検討方針（案）
【4県の報告、検討方針の審議】
2. 現地視察
黒潮町役場新庁舎（高台移転）、佐賀津波避難タワー
3. 検討会における主な意見

○地震・津波災害に備えた住宅地整備にあたっては、自治体・移転住民の自己負担、コミュニティの維持に関する課題があり、経済的な逸失利益も含めた検討が必要ではないか。今後、このような事前復興の課題の整理が必要。

○移住者等の新たな住民も含め、住民の防災意識を高めるためには、地域での取組が重要。黒潮町では地区防災計画を3年間での作成を目指しているが、以降も継続的検討が重要と認識。

○昨年度作成した「四国における津波災害からの復興まちづくりに向けた事前対応の手引き」については、自治体間や省庁間の連携により、被災地の事例の充実や、事前復興の実行性の検証等が必要ではないか。

○東日本大震災の被災地に学ぶことが重要。復興計画レベルでまちづくりの計画を策定しようとしている自治体の情報があれば収集してはどうか。

第3回四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進協議会の開催

【 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室 】

平成29年11月21日（火）に第3回協議会を開催しました。
本協議会は、陸上輸送から海上輸送へのモーダルシフトの推進を図るため、平成28年11月30日に設置したものです。今回は、前回の協議会（平成29年3月13日）でとりまとめた提言「四国におけるフェリー・RORO船を活用した物流効率化推進に向けて」に対する取組状況、新たな事業者ニーズについて意見交換を行いました。
本協議会ではモーダルシフトPR用ツールとして協議会で作成したパンフレットについて、更に分かり易くした改訂の実施、無人航送の増加に伴うシャーシヤードの不足、フェリー・RORO船の運航情報等一括検索システムの構築検討などが挙げられました。
これらの意見への対応は平成30年2月に開催予定の第4回協議会で議論し、新たな提言として取りまとめる予定です。

<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/general/policy/ferryroro.html>

横瀬川ダム定礎式を実施

【 中筋川総合開発工事事務所 】

平成29年12月3日（日）午前10時より高知県宿毛市山奈町にて、横瀬川ダム定礎式を開催しました。
当日は、横瀬川ダムサイトに設営した式典会場において、四国地方整備局の主催で行われ、牧野国土交通副大臣、山本衆議院議員、広田衆議院議員、武内衆議院議員、高野参議院議員、中西参議院議員、足立参議院議員、中平四万十市長、中平宿毛市長、地元関係者並びに工事関係者など約200名の方々にご出席いただきました。

定礎式は、四国地方整備局長の式辞で始まり、国土交通副大臣の挨拶、ご来賓からの祝辞、中筋川総合開発工事事務所長の工事経過報告に引き続き、礎石の搬入、鎮定（ちんてい）の儀、齋饗（いみごて）の儀、齋植（いみづち）の儀、メモリアルストーン（埋納）の儀が行われました。その後来賓と地元の中筋・平田小学校児童によるくす玉開披が行われ、ダムの永久堅固と安泰を祈念しました。

横瀬川ダムは、中筋川流域において頻発する洪水被害を軽減し、四万十市の水道用水の供給を確保するなどの多目的ダムとして建設するもので、平成31年度の完成を目指しています。宿毛市平田町に建設された中筋川ダムとともに、中筋川総合開発事業として中筋川流域の治水・利水・環境に貢献するものです。

撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業完成式典の開催

【 小松島港湾・空港整備事務所 】

平成18年度より整備を進めてきた、撫養港海岸直轄海岸保全施設整備事業が平成29年9月29日に完成し、12月17日（日）に徳島県鳴門市のBOAT RACE鳴門にて、完成式典を開催しました。

式典には、地元選出の国会議員、県議会議員、市議会議員、地元自治体関係者及び工事関係者など、約160名の方々に参加いただきました。

本事業は、病院・学校などの公共施設や住宅が集中する、鳴門市中心地域の貴重な生命・財産を津波・高潮から守ることを目的として、既存堤防の嵩上げや液状化対策のほか、陸閘の電動化、自動化を行いました。今回の整備により、堤防2,590mを改良し、設計津波に対する防護面積は約330ha、防護人口は約10,200人となります。完成にあたって地元住民をはじめ、地元企業の方から喜びの声もお聞きすることができました。

完成式典は、主催者である四国地方整備局長の式辞で始まり、飯泉徳島県知事からは「本事業が早く完成することを待ち望んでいた」、菊地港湾局長からは「地域の皆様の安全・安心の確保や地域の経済活動の更なる活性化にも寄与するものと期待」との挨拶がありました。

続いて、来賓の山口衆議院議員、石田衆議院議員、中西参議院議員のお三方から祝辞をいただいた後、地元を代表して泉鳴門市長から「新しい技術の活用など、防災機能を確保しつつ、親水性や景観にも配慮して施工頂けたことを深く感謝している」との挨拶をいただきました。

この後、事業概要の説明をし、四国地方整備局長より飯泉知事へ海岸保全施設目録を引渡し、地元小学校の児童を交えてのテーブルカットと、大型スクリーンを使用して、事業の紹介や感謝の気持ちを込めた映像の上映を行いました。

式典会場に、BOAT RACE鳴門のマスコット「なるちゃん」とテレビ鳴門のマスコット「ムヤくん」も駆けつけてくれ、事業の完成をともに祝ってくれました。

最後に、サプライズで鳴門市阿波踊振興協会の「鳴門市連」による阿波踊りが披露され、しなやかで美しい女踊りと豪快で力強い男踊りで、式典の最後を華やかに締めくくっていただきました。

四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

四国地方整備局Facebook

<https://www.facebook.com/shikokuchisei/>

自治体担当者様におかれましては、首長ご本人への転送とあわせて、職員の方への

周知もお願いいたします。

「いきいき四国通信」に関するご意見、配信中止・配信先変更のご希望等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

国土交通省 四国地方整備局 企画部 「いきいき四国通信」事務局

mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp
